

2017年3月23日付 建設通信新聞 第12面(最終面)

試験をイメージした勉強法のすすめ

今回は施工管理技術検定の具体的な対策から離れ、勉強への取り組み方について触れていきたい。長年、さまざまな資格の受験生を見てきたが、勉強しているのになぜか合格できない人がいる。そこで、そのような受験生に最もよく見られる傾向を挙げていきたい。

これは資格の種類や難易度に関係なく同様のことが言えるので、施工管理技士以外の資格を目指している方にもぜひ読んでいただきたい。

■試験は結果がすべて

「復習を溜めてしまった」これは試験日が近づくほど多数の受験生から寄せられる悩みである。つまり復習が満足にできなかったというものである。そこで、真面目な受験生ほど、一からやり直し、一気に挽回してやろう！と考える。

もちろん、試験日までになんかできればよいが、これは失敗する例が非常に多い。試験勉強には、その時期にあったやり方があり、直前期においては思い切っ

施工管理技士 合格のポイント④

最大の結果を出す勉強法



て過去のことは忘れ、最も重要度の高い問題から順に取り組むことがオススメだ。

例えば、施工管理技術検定であれば、重要性が高い施工管理法の過去問を解けるようになることだけに専念する。この方法は、忘れてしまった項目を思い出すために、参考書の該当箇所を探しながら解き進むので時間がかかるだろう。

しかし、それでも一応は、その問題を解けるようになる。もし過去に復習しき

れていないテキストをはじめから読み直すとすれば、数週間かかり、おそらく試験日までには試験範囲の問題を満足に解けず、受験することになるだろう。

過去問を解かなければ、試験本番では大変苦しい戦いになる。この傾向が自身に当てはまるようであれば、改善する必要があるかもしれない。勉強に対する思考が合否を左右する可能性があることをぜひ覚えておいていただきたい。

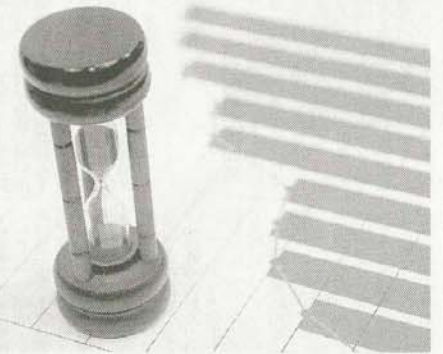
■「時間内に解ける」ように

講義で習得した知識を試験直前に総確認しようとする、一般的にテキストを最初から見直すことになり、時間がかかることは上述したとおりである。また、テキストを眺めるだけでは忘れやすく、分かっていたつもりが実際に問題を解いてみると、「解けない」「思い出せな

い」という事態が起こりやすい。

これを解決する手段は、問題を繰り返し解く以外にない。反復練習の必要性は、1問につき数分以内に解かなければならないという時間的制約を有する試験であることに起因している。

繰り返し解くことにより、試験本番での解答に対する速度と精度を上げることが可能となる。仮に時間的制約のない試験であれば、試験会場で思い出すまでゆっくり考える



なぜ、合格に到達できないのか

ことができるので、「分かる(理解する)」ことだけに注力すれば、受験対策は十分だろう。

しかし、試験時間は限られており、「時間内に解ける」ようにするため、問題を繰り返し解き、「解ける」から「時間内に解ける」という合格レベルの次元まで実力を引き上げるよう努めることが

合格につながるのである。実際に問題を解くことで、より一層知識の定着を図ることができる。それとともに、分かったつもりになっていた知識も明確になり、潜在的な弱点も発見することができる。過去問の反復練習なしに、合格はないことを肝に銘じ学習に取り組んでいただきたい。(CIC日本建設情報センター)